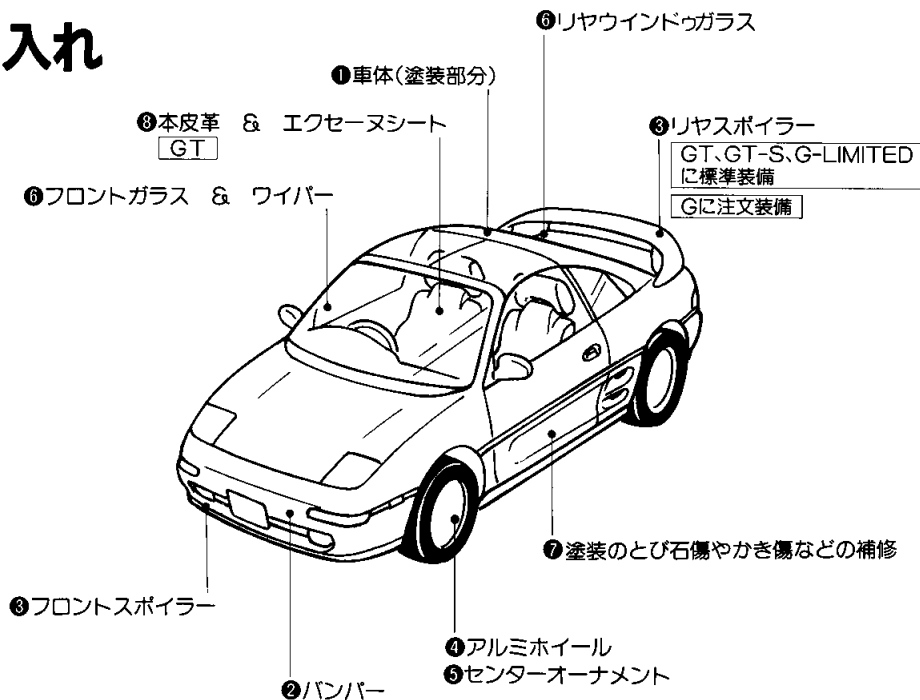


車の手入れ.....103
 経済運転のコツ.....108
 寒冷地での取り扱い.....109
 タイヤチェーン.....111

車の手入れ



車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

- 次のような場合は必ず洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
 - ほこり、泥などで著しくよごれたとき。
- 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。
 - 海岸
 - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
 - 化学物質を排出する工場周辺。
 - 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。



注意!

- コンパウンド(みがき粉)入りワックスや液状ワックスは、洗剤として使用しないでください。
- コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
- エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。
- 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

①車体(塗装部分)の手入れ

1. 車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。
2. 鳥のふん、虫の死がいなどは、トヨタ純正むしクリンを使用して除去してください。

▶洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーまたは水アカクリーナーを使用します。



注意!

1. エンジンルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 濃彩色車やメタリック車は、自動洗車機を使用すると塗装にブラシの傷がつきスリ傷がめだちやすくなります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

〈固形タイプ〉



- A1ネオハード シャインコート
- A1ハード タフ カルナバ
- A1ハード カルナバ
- A1ハード トラッド
- A1ソフト タフ ホワイト
- A1ソフト ホワイト
- A1ソフト メタリック & マイカ

〈液体タイプ〉



- A1コートセット
- A1コート ロングライフ
- A1イーザー(リキッド) オールラウンド
- A1イーザー(リキッド) ホワイト
- A1クリーナーワックス(リキッド) オールラウンド
- A1クリーナーワックス(リキッド) ホワイト

〈ムースタイプ〉



- A1イーザー(ムース) オールラウンド
- A1イーザー(ムース) ホワイト

②バンパーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



ちょっと一言

エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

③ スポイラーの手入れ

たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



ちょっと一言

1. エンジンオイル、グリスなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。
2. 自動洗車機を使用する場合は、必ず前側から洗車してください。洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できないことがあります。十分注意してください。

<フロントスポイラー>

1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正バンパーワックスでワックスがけをします。
2. 塗装用ワックスが付着すると、目地にはいり白くなることがあります。

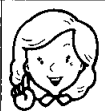


<リヤスポイラー>

車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。

④ アルミホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。よごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正アルミホイールクリーナーをお使いください。
2. ワイヤブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。

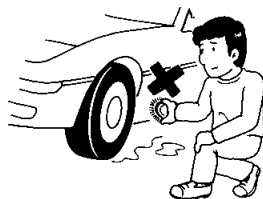


ちょっと一言

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

⑤ センターオーナメントの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。



ちょっと一言

ピッチクリーナーなどが樹脂部分に付着すると、破損の原因となりますので、十分注意してください。

⑥ ウィンドウガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラスクリーナーで清掃してください。



- ガラスクリーナー
コンパウンド
- ガラスクリーナー
リキッド
- ガラスクリーナー
エアゾール

なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので、最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



ちょっと一言

リヤウィンドウガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、湿った布で熱線にそって、軽くふいてください。
ガラスクリーナーなどを使用すると、リヤウィンドウデフォグガー(曇り取り)が作動しなくなるおそれがあります。

⑦ 塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントまたはタッチアップテープで補修してください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

④本皮革 & エクセーナシートの手入れ

本皮革 & エクセーナシートは手入れ方法を誤ると、変色、しみなどが生じるおそれがあります。次の事項を守って正しく手入れをしてください。

〈本皮革部分〉

▶よごれの取り方

- 1.ウール用中性洗剤の5%水溶液をガーゼなどのやわらかい布に含ませ、軽くふき取ってください。
- 2.真水にひたした布を固くしぼって、洗剤をきれいにふき取ってください。

▶乾燥

- 1.水にぬれたときや、水でふいたあとは、早めに乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- 2.直射日光をさけ、風通しのよい日陰で乾燥させてください。



ちょっと一言

- 1.表面をナイロンブラシ、合成繊維類で強くこすったりすると傷つくおそれがあります。
- 2.ベンジン、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤、酸またはアルカリ性の溶液を使用すると、表面が変色するおそれがあります。
- 3.本皮革部分のよごれは、カビなどの発生原因となります。油よごれなどには十分注意し、常に清潔に保つよう心がけてください。
- 4.直射日光に長時間さらすと、表面が硬くなり縮むことがあります。駐車する場合は、できるだけ日よけに心がけてください。
- 5.夏期など室内が高温になる状態のときに、シート上にビニール類をおいておきますと、ビニールが変質してシートに付着するおそれがあります。
- 6.よごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正高級本革シート・ケアセットをお使いください。

〈エクセーナ部分〉

▶よごれの取り方

- 1.家庭用中性洗剤をガーゼなどやわらかい布に含ませ軽くふき取ってください。
- 2.水にひたした布で洗剤をきれいにふき取ってください。
- 3.家庭用中性洗剤を使用してもよごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正シートクリーナーを使用してください。

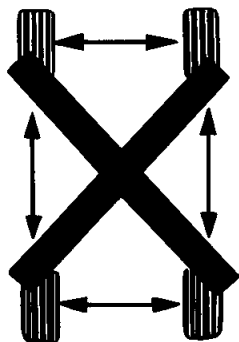


注意!

- 1.表面を硬いブラシなどでこすると傷つくおそれがあります。
- 2.エクセーナの表面はアルコールに弱いいため、アルコールを含んだ洗浄剤は絶対に使用しないでください。また有機溶剤(シンナー等)は使用しないでください。

■タイヤ位置交換

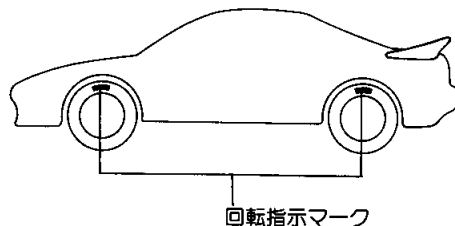
前後輪でタイヤサイズが異なります。また回転方向が指定されているため、左右のタイヤは異なります。したがって4本とも専用となっており、タイヤ位置交換はできません。



注意! 積雪時に後輪がパンクしたときは、一時的に同じ側の前輪を使用してください。(92ページ注意3.参照)

■タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されています。タイヤ側面の回転指示マークが下図のように必ず車両前方へ向くように取りつけてください。



メーカー名	回転指示マーク
ブリヂストン	
ヨコハマ	

■エンジンオイルについて

エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行(80km/h以上での走行)を行う前には、必ず点検してください。(点検方法については「整備手帳」を参照してください。



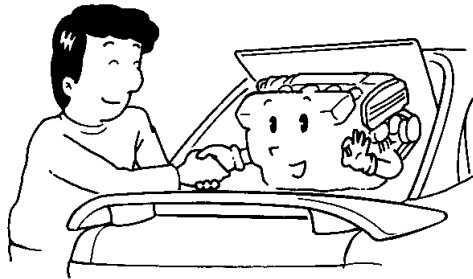
ちょっと一言

エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

経済運転のコツ

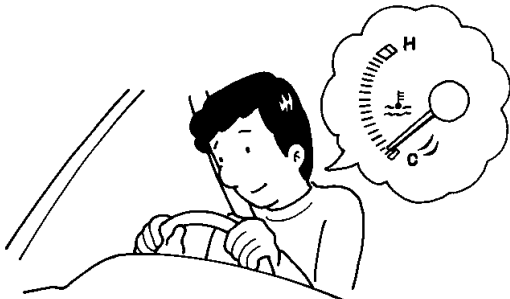
エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



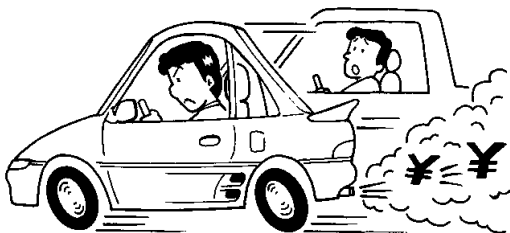
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出すまでになればOKです。



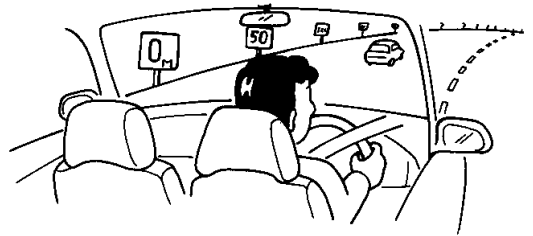
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5～1.7倍よけいに多くかかります。

高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、
安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない
不経済



クラッチの適正で確実な操作は、
車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることとなります。
2. 走行中は、クラッチペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)ギヤを使用してください。
セカンド(2速)ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

寒冷地での取り扱い

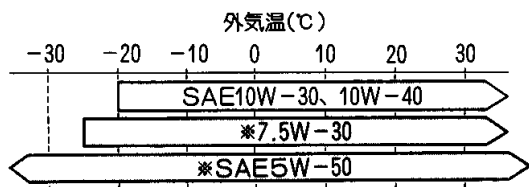
この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤチェーンの準備
2. 冬用タイヤの装着
冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換します。
3. 冷却水の濃度を点検してください。(寒冷時は、トヨタ純正ロングライフクーラントの濃度を50%にします。)
4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

5. エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



※極寒時は7.5W-30、5W-50をおすすめします。

6. 寒冷地では、冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
また、水分除去剤にはトヨタ純正ウォーターカットを使用してください。
7. 凍結防止用ワイパーブレードの装着(降雪地のみ)
必ずトヨタ純正品を使用してください。

走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時に、アクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロントウィンドウの氷雪を除去する際には、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには

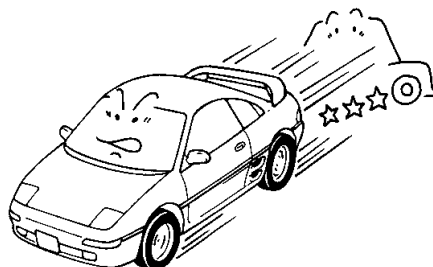


1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけると、エンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、車両前方を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は、無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。

ターボ車はエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



ペダル操作時のすべり防止のため、靴に付着した雪を乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

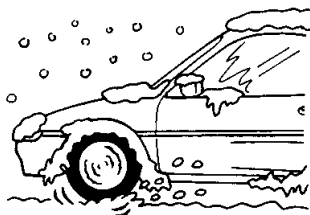
寒冷時はパーキング（駐車）ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング（駐車）ブレーキはかけないでください。

- 1.チェンジレバーの位置をマニュアル(ギヤ式)トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチックトランスミッション車はPにします。
- 2.車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。



雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



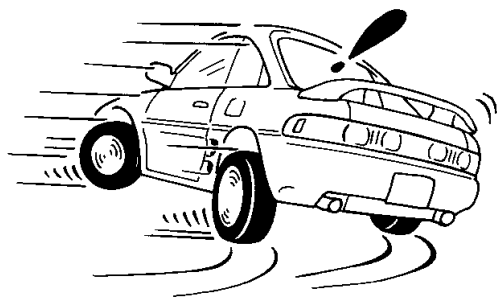
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、冰雪路面、凍結路面ではスリップに注意



- 1.ひかえめな速度で走り、冰雪路面、凍結路面では、冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。
- 2.GT、GT-Sに装着されているタイヤは、ハイグリップタイヤです。ハイグリップタイヤは、一般走行時でのグリップ性能を重視して作られています。積雪路、凍結路では、一般のタイヤに比べてグリップ性能がより低下します。積雪路、凍結路では、必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えめに運転してください。なお、タイヤチェーンを後輪に装着しても前輪のグリップ性能は低いいため、より慎重に運転してください。

タイヤチェーン

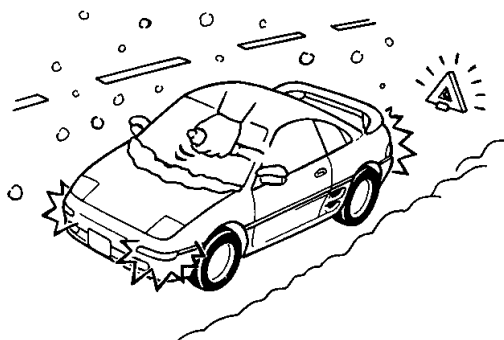


ちょっと一言

1. タイヤチェーンは後輪に取りつけます。
2. 応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
(92ページ 注意3.参照)
3. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
4. タイヤチェーンは必ずMR2専用のトヨタ純正品を使用してください。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼします。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

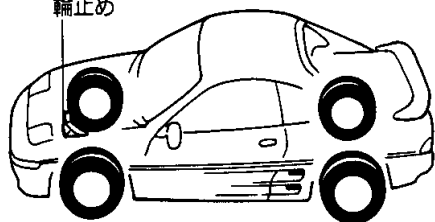
■取りつけ方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。
3. パーキング(駐車) ブレーキをかけます。



4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。

輪止め



6. 後輪をジャッキアップします。☞91ページの「ジャッキ」を参照してください。
7. タイヤチェーンを取りつけます。☞取りつけ方は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書をご覧ください。
8. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。
9. 2~3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。



注意!

1. タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h以下で走行してください。
2. 雪道、凍結路以外でのタイヤチェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
3. 走行中タイヤチェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
4. 前輪にはタイヤチェーンを装着することはできません。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン